

第4回足立区基本構想審議会会議録

日 時 平成27年12月2日（水曜日） 午前9時00分から11時00分

場 所 足立区役所中央館8階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会委員（35名）

牛山久仁彦会長、田中充副会長、村上祐介委員、石阪督規委員、田中隆一委員、有馬康二委員、足立義夫委員、吉田修一委員、小久保兼保委員、野辺陽子委員、河本孝美委員、小林雅行委員、田中忠穂委員、近藤勝委員、鈴木健文委員、石橋穠治委員、大塚和夫委員、北川千恵子委員、志自岐亜都子委員、早木美恵委員、益留有紀委員、鴨下稔委員、吉岡茂委員、渡辺ひであき委員、馬場信男委員、ただ太郎委員、たがた直昭委員、長井まさのり委員、岡安たかし委員、くぼた美幸委員、ぬかが和子委員、鈴木けんいち委員、おぐら修平委員、石川義夫委員、定野司委員

事務局 政策経営部長、政策経営課長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係長、シティプロモーション課、(株)地域計画連合

議題等 1 これまでの取り組みについて

2 各専門部会に付託された検討結果（将来像及び基本理念の考案等）（報告）

3 今後の足立区基本構想審議会（全体会）スケジュール（説明）

4 基本構想答申の章立てイメージについて（説明）

5 基本構想答申の骨子案について（検討）

6 事務連絡（次回の予定）

資 料 【資料 子⑤】【資料く⑤】【資料ま⑤】【資料経⑤】専門部会検討結果

【資料 18】 基本構想答申の章立てイメージ（案）

【資料 19】 基本構想答申の骨子（案）

1 これまでの取り組みについて

基本構想担当課長：定刻になりましたので、ただいまより第4回足立区基本構想審議会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また開始時間が変更となりまして、大変申し訳ありませんでした。委員の皆様には、各専門部会においてご議論を重ねていただきまして誠にありがとうございました。本日から終盤ということでまとめの議論に入っていただきますが、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。それでは、牛山会長に進行をお願いいたします。

牛山会長：再び全体会での審議となりますので、本日もよろしくお願いいたします。各専門部会では本当にご議論をありがとうございました。さまざまなご提案をいただいたと伺っております。それらのご意見を今後は答申にまとめ上げていくということになりますので、本日もご審議、そして円滑な進行にご協力をいただきますようお願いいたします。

それでは審議に入りたいと思います。本日新たに配付された資料がございます。事務局から説明をお願いいたします。

基本構想担当課長：それでは、事務局から資料の確認をさせていただきます。まずは本日の次第です。次に、A3版の各専門部会の検討結果が4枚ですが、右上部分の表示で、資料子⑤、その次に資料く⑤、その次に資料ま⑤、その次に資料経⑤となっております。次に、資料18と表示の基本構想答申の章立てイメージ案です。最後に、資料19。基本構想答申の骨子案です。資料に不足はございませんでしょうか。以上でございます。牛山会長よろしくお願いいたします。

牛山会長：ありがとうございます。それでは次第の1、これまでの取り組みについて事務局からご説明をお願いします。

基本構想担当課長：再びの全体会となりましての初回ですので、審議会におけるこれまでの取り組み内容について、資料は特にございませんが簡単に振り返りをさせていただきます。

まず、7月と8月に全体会を3回開催いたしました。ここでは会長の進行により、区の現状および将来への課題について、検討素材や現在の基本構想・基本計画に対する取り組みの成果に関する資料も題材の一つに意見交換をしていただきました。また、無作為抽出の区民によるあだちサロンや、中学生・高校生ワークショップで出された意見についても検討していただきました。こうして全体会で出された意見は、分野別に整理して各専門部会に引き継ぎました。

続いて、9月以降は4つの専門部会に分かれて各3回開催しました。各部会長の進行により、ワークショップ方式で今後取り組むべき課題を議論のうえ、途中、人口推計の報告もさせていただきながら、それぞれの基本理念および将来像について審議していた

できました。審議結果は全体会での意見も含めて1枚のシートに整理し、毎回内容を更新しました。それらのシートについては、この後各部長からご報告いただきますが、本日から答申としてまとめ上げていく作業になりますので、まとまる前段階の有意義な議論の内容を広く知っていただくため、区のホームページにある基本構想のページ上でも公開させていただきました。ちなみに区のトップページをご覧くださいと、上の方に注目ワードというコーナーがございます。そこの基本構想・計画という部分がありますのでクリックしていただくと、掲載ページに到達する状況となっております。

委員の皆様には、ここに至るまで活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。以上でございます。

2 各専門部会に付託された検討結果（報告）

牛山会長：どうもありがとうございました。それでは次に次第2、各専門部会に付託された検討結果についてです。各部長から資料⑤の将来像や基本理念を中心にご報告をいただき、その審議に加わっていただいた部会員の皆様からも不足があればご発言をお願いしたいと思っております。時間の関係もございまして、報告は3～4分程度。それから部会員の方からの補足については1～2分程度で進めていきたいと思っております。全ての報告が終わってから、更に質問の時間を設けたいと思っております。なお、いつもと同じように会議録に必要なため、お名前をおっしゃってからご発言をお願いしたいと思っております。

それでは初めに子ども専門部会の村上部会長、よろしくお願いします。

村上委員：子ども専門部会に参加した村上です。資料⑤の右側半分をご覧ください。将来像及び基本理念を先に説明したいと思います。子ども専門部会では、将来像、あるべき姿としてさまざまな議論が出たのですが、4点にまとめました。一つ目は子どもの笑顔や夢を第一に考え、子どもにとっての最善を目指すまちということであり、二つ目が、多様性や可能性を大切に、一人ひとりの子どもが主体的に生きる力を育むまちということとあるべき姿として打ち出すべきだという議論になりました。三つ目が、親から見て、安心、そして安定して子どもを育てられるような環境づくりをすべきであり、そういったサポートを行政や地域一体ですべきだということで、このようなあるべき姿を打ち出しました。四つ目が、地域やさまざまな人が密接に結びつき、子どもたちを支え育むまちということで、ネットワークで丸となって子どもの成長に貢献できるまちを目指す。以上この四つが足立区の子ども専門部会での将来像、あるべき姿として打ち出されました。

その根本となる考え方として、基本理念を三つまとめました。一つは多様性を尊重するということです。これは可能性とか多様性という言葉が先ほど入っていたと思うのですが、どのような環境に置かれた子どもでも、その自分らしく生きられる。そしてその個性・可能性を育むような場づくりをしていくということが一つ目の理念です。二つ目が、先ほど地域やさまざまな人が密接に結びつきということがあるべき姿の中でありましたが、基本理念としてはネットワークの強化です。地域のさまざまな主体との重層的な関わりと書いていますが、2行下にありますように、住民だけではなく足立区を越え

たネットワークも含めて、そうしたつながりを強化して子どもを育んでいくということを基本理念として出しました。三つ目が子どもの想像力や可能性を引き出すということで、これは夢とか希望とか創造力といったことがキーワードなのですが、子どもの潜在的な創造力や可能性を引き出すようなサポートをしていくということを基本理念として打ち出しました。若干の補足ですが、左の方に子ども専門部会の課題がありまして、下に提案というところがあるのですが、例えば具体的には高校を中退した人に対する支援、あるいは高齢者と若い世代の関係づくり、道徳やマナーの向上といったことが提案として挙げられました。

部会員から補足があればお願いします。

鈴木けんいち委員：部会長からあった通りなのですが、例えば多様性を尊重するという中では、子どもに障がいがあったり、あるいは貧困であっても十分に生きられるということも議論をしました。それから、子どもの創造力や可能性に対する点では、学校の先生が子どもたちとじっくり向き合えるような環境づくりが大事なのではないかといったことなどが出されました。

岡安委員：ネットワークを強化するところの2行目で、保護者に必要な協力を届ける。この協力というのは読んだときに非常にイメージしにくいなという感じがあり、より良い表現があればと感じました。

村上委員：ありがとうございます。こちらは全体の中で協力という言葉をもう少しくまく置き換えられるようなものがあればと思います。

子ども部会からは以上です。

牛山会長：続いてくらし専門部会の石坂部会長、よろしくお願いいたします。

石坂委員：資料く⑤をご覧ください。右側から、足立区の将来像についてです。多岐にわたる分野ですので絞り込みが大変だったのですが、四つにまとめさせていただきました。一つ目ですが、あまりお金をかけずに、まちも心も豊かに成長するまち。ここがポイントです。あまりお金をかけないというのは、経済的な利潤であるとか、利益といったものを追求することだけが、このまちにとってメリットがあるという訳ではなく、足立区というのはそこまでお金をかけなくても心もまちも豊かになる方法があるのではないかとということをみんなで考えてみようとなりました。ですので、心の豊かさを強調するために、あえてあまりお金をかけずにといった文言を入れさせていただきました。それでも十分に楽しく暮らせることが足立区の魅力ではないかというのが一つ目です。

二つ目が、足立らしい多様なコミュニティと連帯感が生まれる。これは主にコミュニティについてですが、足立区はご存じの通り町会・自治会の加入率がじり貧傾向にあって、実際には5割程度の水準で、このままでは下町の昔ながらのコミュニティやお祭りの運営も厳しくなってくるため、そのようなものが非常に大事だということを前提に、新しいコミュニティづくりとして、新しい地域の人たちのつながりに結び付けていかな

ければいけません。つまりコミュニティがしっかりしているところとそうではないところが足立区の中にはいろいろ偏在しているような状況で、むしろそういったコミュニティを、新しいいろいろな世代でいろいろな人たちが入れるようなものにしていく必要があるだろうということでこの二つ目が出ました。

それから三つ目ですが、生涯にわたって健康でいきいきと活躍できるということですが、これは単に高齢者をサポートする、福祉の充実を目指すということだけではありません。単にサービスでお金を出していく福祉のまちというのはよくありますが、そうではなく、むしろ健康で暮らせるところがポイントになります。ですので、健康であり続ける。もっと言えば、福祉に依存しなくても、自分たちで健康にいきいきと暮らせるようなまちになるためには、どのようなものが必要なのかということを考えていく必要があるだろうということで、今まで取り組んでいる足立区の取組みの延長上に位置するということでこちらが入ってきました。

最後に四つ目ですが、足立区の魅力をともにはぐくみ、積極的に発信していく。オリンピック・パラリンピックも視野に入れながら、情報発信ということになると、今まであまりオール足立にはならなかったのですが、これからは魅力を足立区として一体感を持って発信していき、足立区の良さや魅力をもっと積極的に区外にPRできるようなくみをつくっていく必要があるのではないかということで、このようなものになりました。

そしてそれを踏まえて基本理念として、二つまとめさせていただきました。一つは、心の豊かさについてです。価値観をどこに置くかは人それぞれですが、経済的なものであったりとか、例えば利益を追求するということだけではなく、むしろこれからは心の豊かさの時代だろうということです。足立区に住むと心が豊かになる、あるいは足立区に住んでいる人は心が豊かなのだということ、例えば人や地域のぬくもりや温かさなどが感じられる。更に夢や希望を持って前に進める。こういったまちになってほしいという思いからこの言葉を選びました。

そして二つ目が一体感ですが、単にみんなが一緒になるという意味だけではなく、まず一つは区民・行政・企業・大学等々、今まで足立区はそれぞれ一生懸命頑張ってきたのですが、なかなかそれぞれが連携し合うことがありませんでした。それぞれ点として頑張っていて、それがなかなか線や面になっていない。こういったものが連携・協力しながら、一体感を持ってそれぞれの力を発揮することで、足立区の活力につながるだろうということです。そのため、これは相互に依存し合うという意味ではなく、それぞれの個性を活かした連携なりつながりを足立区は大事にしていくのです。そうすると、例えば産学官の連携だったり、あるいはさまざまな官民の連携だったり、いろいろなものが出てくるのではないかと思います。

いずれにしても、いろいろ出てきた左側にある通り、課題はたくさんあるのですが、それぞれを集約させていただいた結果、右の通りになりました。また、区民あだちサロンや中高生のワークショップの意見等々も踏まえて、皆さんから意見を出していただいた結果となっています。

発表は以上です。補足がありましたら、委員の皆様よろしくお願いします。

(補足発言なし)

牛山会長：ありがとうございました。続いてまちづくり専門部会の田中部会長、よろしくお願いいたします。

田中副会長：ま⑤という資料をご覧ください。まちづくり専門部会の検討結果のまとめでございます。まちづくりの課題で、左側に何点も整理していますが、例えば少子高齢化への備え、あるいは財政問題への対応。それから地域の環境資源や自然資源の活用。それから安心・安全といった観点からのまちづくり。それから民間の活力であるとかポテンシャルを活かすまちづくり。そして魅力あるまちづくり。こういった課題がさまざまな観点から出されました。区民サロンや中高生からの提案も踏まえて整理しました。

そういった課題に対応する足立区の将来像として、右の三つの論点でまとめております。誰もが安心して安全に住み続けられるまちについて、まずは区民の皆さんが安全・安心でそこに住み続けていきたいというまちを目指したい。年齢や障がい、あるいは国籍といったものにかかわらず、安心して住み続けられるということが第1の将来像。それから第2は、足立区の強みや特性として、例えば豊かな水、あるいは緑・歴史・文化、あるいは地域の産業などさまざまな機能・特性を持っているわけですから、こういったものを活かした魅力あるまちを目指すことが二つ目の将来像です。そして三つ目は、将来ということになります。将来の負担、こちらは財政問題や少子高齢化ということになりますが、こうした将来のことを踏まえたときに、将来を見据えて進化し続けるまちということで、次の世代、あるいは更にその次の世代に残していけるようなまちを目指していくという三つの将来像を掲げたところです。

その上で、基本となる考え方として二つの方向性を提起しております。一つは地域力です。地域が持つ、あるいは事業者や住民・行政が持っているさまざまな資源・蓄積を活かしていく。あるいは、そうしたものを活用していくなどといったことが地域の力ということになります。愛される足立区にしていくようなまちづくりということです。それから二つ目の理念としては、人にやさしいまちです。誰にとっても魅力的で住みやすいまち。そこには、年齢や障がい、あるいは外国籍といったものを超えて、あらゆる人が普遍的に享受できる環境などを考えていくということで、この二つのコンセプトを元に足立区の将来像を考えていってはどうかということでもとまりました。

以上です。部会員の皆様から何か補足やコメントがありましたら、お出しいただきたいと思います。

(補足発言なし)

牛山会長：どうもありがとうございました。それでは最後に、経営改革専門部会の田中部会長、よろしくお願いいたします。

田中隆一委員：3回にわたる専門部会でまず課題を整理した上で、あとは将来の基本理念について議論を他の部会同様進めてきましたが、大きく三つの柱があるとするならば、

財政の問題とあとは情報発信、ブランディング、シティプロモーションの問題。更に区と住民との連帯や協働といった三つのテーマと、それ以外にもさまざまなご意見をいただきましたが、そういったところを中心に意見交換させていただきました。

資料経⑤の右側の将来像、あるべき姿に関してですが、そういった三つの観点を踏まえて3点ほど将来像を掲げさせていただきました。1点目が、「住民力」が活きる、区民が誇りを持ち、幸せに感じられるまちということで、足立らしい魅力と人情味があふれるまちの中で、一人ひとりが力を発揮し、誇りを持って足立区に住み続けることができるまちを目指すということが1点目でございます。2点目ですが、新たな視点や発想を持ち、足立区独自の魅力をつくり、発信していくまちですが、大学をはじめ多様な企業や区民ももちろんのこと、多様な主体との協働や連携を進めていくことによって、足立区の魅力を更に高め、それを区の中、区の外に向かって発信していくことによって足立ファンが増えると書いてありますが、そういったまちを目指していきたいということでございます。3点目。健全財政のもと、一人ひとりが自立し連帯しているまちについて、他の専門部会でも挙がっていましたが、少子高齢化、厳しい財政ということを現実として捉えながら、一人ひとりが区政を応援していくという姿勢を持って未来を築くまちを目指すということです。

この三つの将来像というのは、それぞれが独立しているわけではありません。お互いがそれぞれ何らかの形で絡むわけですが、こういった将来像を設定した根本となる考え方としては、よりよい明日を目指すわがまち足立という言葉でまとめております。区政も区民も足立区を良くしたいという思いは同じですが、足立区に対して誇りを持って、更に新たに入ってくる人たちも居場所を見つけることができる。区民だけではなく、外から企業や大学、さまざまな方々を呼び込んで、更に足立区という場所を魅力あるところにしていきたいというような考え方がまず基本の第1点であります。更に第2点目としては、行政・区民・事業者など、足立区に関わる全ての人々が地域に貢献し、自主的に関わっていくという姿勢を持ってこの足立区をより良くしていきたいという思いを込めて、上の将来像の三つを掲げております。

部会員から補足があればお願いします。

北川委員：これは補足というよりも事務局への確認です。経営改革専門部会の課題の下の方にくらし専門部会への提案があるのですが、本来、資料く⑤に書いてあるべきものだということでよろしいでしょうか。資料の誤記というよりは、初回の議論でくらし専門部会に提案しましょうということになっていたのですが、実際には連絡は行っていたのでしょうか。

基本構想担当課長：ただいまのご質問の件ですが、この案件だけではなく、提案として出していただいた部分はすぐに各該当の部会の方にお伝えしておりまして、ご議論をいただいております。

牛山会長：他にはよろしいでしょうか。

田中隆一委員：経営改革専門部会の報告は以上です。

牛山会長：ありがとうございます。以上の部会の報告を踏まえて、ご質問はございませんか。

私から1点よろしいでしょうか。足立区の将来像、あるべき姿について、子ども部会の資料の3番目のところで、親が安心・安定して子どもを育てられるということで、親の視点からおっしゃったのですが、子どもの視点かと思っていました。子どもを育てると親が成長できるというところが少し分かりにくかったので補足説明をお願いします。

村上委員：基本的な視点として、さまざまな状況や環境のお子さん、それから親御さんがいらっしゃるということが足立区の一つの特徴であるという議論があったと記憶しています。そうした多様な環境の中で、子どもが成長するのをサポートするのはもちろんなのですが、親もしっかり支援、サポートし、親自身も成長できるというような視点も重要であろうということで、子どもを育てるだけではなく、親も成長できるようなまちを目指すといったしました。さまざまな環境の家庭、あるいは子どもや親があるということから、親も子育てを楽しみ、自らも成長できるということを入れたという趣旨です。

牛山会長：ありがとうございます。上のスローガンで自らも育つとあり、下の文章では自らも成長できると言葉を変えている意味はあるのでしょうか。

村上委員：成長イコール育つということで、違いを特段意識してはいません。親自身も子育てを通じて自分がブラッシュアップされ、成長できるようなという意味で、育つとか成長といった言葉をほとんど同じニュアンスで使っています。

牛山会長：また後ほど議論させてください。

定野委員：今の点ですが、子どもが生まれてすぐ親になるのではなく、親は子どもと一緒に成長して初めて親になります。例えば小学校に上がったときに、親の態度や姿勢がかなり異なります。昔はおじいちゃんやおばあちゃん、あるいは周りの方がいて、子育てをサポートする中で親が親らしくなっていくものでした。ところが、今はなかなかそのようなところに到達していない部分も含めて、成長という言葉を使っているのだと記憶しています。

牛山会長：ありがとうございます。また議論をできればと思います。他にご質問はいかがでしょうか。

石橋委員：専門部会そのものの話ではないのですが、先ほど事務局からお話がありましたように、この審議状況は区のホームページで公開されており、非常にタイムリーで、私も実際に拝見しましたが、かなり詳しく状況が議事録を含めて全て公開されていると

ということで、非常によいことだと思います。こちらに関してまだパブリックコメントではないのですが、問い合わせ先が書いてありますので、何か反応があったかどうかをお聞きしたいです。

それから、区のホームページ全体の問題だと思いますが、これに関してアクセスのカウントができるのかどうかというのを伺いたいと思います。

牛山会長：では事務局お願いします。

基本構想担当課長：まず1点目のホームページに公開された件ですが、まだ掲載して間もないので反応はありません。同じものを区職員に対する掲示板等で周知しておりまして、今後の事業運営等に活かしてもらうように進めているところです。反応としては、7月にこれから基本構想審議会を始めますという広報紙を出しましたら、どういったことを考えているのかといったご質問やご意見などといったかなりの問い合わせをいただきました。パブリックコメントは来年度を予定しておりますので、またその際はホームページや広報紙等で周知していきたいと思います。

2点目のホームページのアクセスカウントですが、これは該当する所管が取っており、1か月単位ぐらいで出るものですので、次回あたりご用意できればと思います。

志自岐委員：くらし専門部会、まちづくり専門部会、経営改革専門部会の中で足立区の魅力といった言葉が出てくるのですが、これについて一つまとまった概念、あるいはイメージといったものがあるのでしょうか。単純に足立区の魅力を磨くといわれても、それが何なのかということが分かりません。それぞれ違うのでしょうか。

牛山会長：こちらについては各部会に伺ってもよいのか、全体を見ている事務局に答えていただくのがよいのでしょうか。

基本構想担当課長：各部会でお願いします。

田中副会長：資料ま⑤をご覧ください。例えば強みや特徴を活かした魅力あるまちというキーワードとなっていますが、その魅力というのは、例えば足立区で具体的なまちづくりの観点で言えば、交通の利便性の高いところもあるけれども低いところもあります。この他に、住みやすい、あるいは水や緑にも恵まれている、それから庶民的であるなどといったさまざまな特性・個性があると思います。このようなものを魅力として捉えていこうということです。地域にあるそうした自然資源や地域資源、あるいは社会資源などを磨いていく、あるいはより良いものにしていくということが魅力の発信になるだろうということです。例えばそのようなことを考えて、それらを活かすことによって人が集まる、あるいは住み続けるまちにしたいということがキーワードのバックヤードとなります。

石坂委員：資料く⑤で、足立区の魅力をともに育みというところで使われている魅力に

ついて、足立区にはあまり魅力がないという若い人の意見がありました。むしろ足立区というとネガティブなイメージが先行してしまって、特に区外に住んでいる方からすると、何となく足立区というイメージできるものによいものがないのではないかという議論がありました。ですから、まずは誰もが共感できるシンボリックなものをつくろうということです。例えば、足立区にはこういう魅力があるというものをみんなで考えてつくり、一体で広報・PRしていくという意味合いで魅力という言葉をあえて使いました。逆に言えば魅力がそれぞれバラバラに散らばっており、外に大きく提示できるものがないので、それを集約してもう一回足立区のセールスポイントとしてPRしていこうという意味合いで使いました。

田中隆一委員：資料経⑤で、将来像で魅力が最も多く出てきていると思います。最初の足立らしい魅力、人情味あふれるまちの中でということと、あとは二つ目のところで足立区独自の魅力をつくりといったところから出てきております。現時点で既に住民にある魅力としては、人情味あふれるまちです。将来像のところで書いた足立らしい魅力あるまちにおける魅力というのは、大学がたくさんやってきているといったところを中心として、これから更にその魅力を、大学の誘致などを通じて高めていこうということを中心として議論をした上で出てきた言葉です。

志自岐委員：足立区の魅力とは何なのかというのは、この場でも統一見解的なものがある程度必要だという気がしました。

牛山会長：それぞれ足立の魅力をまとめていただいておりますので、今日の議論を踏まえてまとめていければと思います。他にご質問はございませんか。

鈴木けんいち委員：くらし専門部会の足立区の将来像の中で、将来にわたって健康でいきいきと暮らせるまちというのがありまして、部会長のご説明の中で福祉に依存しなくてもというお話がありました。福祉がいらないという意味ではないとは思いますが、やはりいきいきと活躍するには、例えば障がい者にとってちょっとした福祉的な支援があるといきいきと活躍ができる面もあると思います。そのような点で福祉の位置付け、あるいは経済的支援の位置付けなどはどのようなになっているのでしょうか。

石坂委員：高齢者サポートに加えてという意味です。もちろん福祉を充実させないということではなく、足立区の場合これまで健康でいるためのいろいろな支援、例えば健康寿命を延ばすであるとか、あるいは健康でいきいきと暮らせるためのさまざまな方策を区として考えてこられたので、その延長上に位置付けていく必要があるだろうということです。ですので、ここは福祉的な視点というよりは、むしろ健康であり続けるためのさまざまな方策をみんなで考えていこうという意味合いであり、もっと広い概念です。特定のターゲットということではなくて、皆さんがということです。

志自岐委員：資料ま⑤の中の3番目の将来像の文章で、インフラ事業などを再評価し、

とありますが、まちづくりなどで計画されているものをもう一度見直すという意味でしょうか。

田中副会長：少子高齢化が進み、かつ財政問題が逼迫してくる中で、やはりそれなりの組み替えが必要になってくるという考えです。ですから、今の地域資源を活かすということと、それから今あるインフラ、予定されているインフラをこの時点で必要があれば順位を付ける、あるいはどこに順位を付けるかということを少し考えるべきだという視点が盛り込まれています。

おそらく足立区はこれから直面する課題、中長期にわたって直面する課題の一つはやはり財政です。財政が厳しくなるということは、まちづくり部会の中でもデータを見せていただいて、それを基に将来像を考えていくことになります。他方、くらしや子育て、教育でも行政ニーズがこれから更に増えてきて、行政の施策に対するニーズや要望が広がってくると思います。そこには多様性もあったり、あるいは高齢化への対応といった課題もあります。そこで大事なことは、そうした行政に対するニーズ、施策に対するニーズと、限られた財源の中でどのように順位を付けていくかということだと思います。そのようなことをそれぞれの部会でも縦割りで議論してきましたので、それぞれの部会の中の優先的課題が持ち上がってきていますが、区政全体を考えた場合の優先順位という考え方が必要になってくると思います。

牛山会長：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ご質問ありがとうございます。各部会でご審議をいただいた足立区の魅力をどのように考えていくかということで議論していきたいと思います。

3 今後の足立区基本構想審議会（全体会）スケジュール（説明）

牛山会長：それでは次第の3、今後の足立区の基本構想審議会のスケジュールについて事務局からお願いします。

基本構想担当課長：次第の3に記載の日程に沿って説明させていただきます。まず第4回、本日についてです。これまでの専門部会の検討結果等を踏まえて、2月に提出していただく答申をまとめる上での骨子案をお示ししますので、このあとご検討をお願いいたします。次に、12月24日の第5回については、骨子案の検討結果を踏まえて答申案の原稿をお示しし、その検討となります。続きまして、来年2月4日の第6回は、答申案の原稿について第5回で検討した結果の確認をしていただきます。最後に第7回、2月25日は答申を区長に提出していただきます。以上でございます。

牛山会長：どうもありがとうございました。

4 基本構想答申の章立てイメージについて（説明）

5 基本構想答申の骨子案について（検討）

牛山会長：それでは続きまして次第4、答申章立てのイメージ、それから次第の5、答申の骨子案についてまとめて事務局からご報告をいただき議論していきたいと思います。

基本構想担当課長：最初に資料18をご覧ください。答申の章立てイメージについてです。こちらの図は、答申をこれまでの審議内容を踏まえて、このような章立ての冊子でまとめていくという提案になります。図の左から序章、次に第1章の足立区が目指す姿。内容は将来像や基本理念などです。その次が、第2章の将来像の実現に向けた視点、基本的方向です。最後に第3章で後書きとなる文章という構成です。この中で特に第1章は、4つの専門部会から将来像や基本理念について数多くの検討結果が出されただけに、抽出ではなく全てを包括した表現にまとめています。そのため、関係性等の説明もあって一つの章に設定いたしました。一方、第2章の基本的方向では、同じ各専門部会からの検討結果を基に、具体的な取組みとして表現いたしました。なお、序章と第3章の原稿は、これまでの審議内容をもとに牛山会長に次回以降ご用意いただく予定です。これら各章の中身については、後ほど骨子案の方でご説明いたしますが、委員の皆様には本日の議論という正方形で囲った第1章・第2章について、骨子案を基にご検討いただきたいと存じます。

引き続きまして、資料19をご覧ください。答申の骨子案についてです。先ほどの章立てイメージでまとめていく場合にということになりますが、各章に盛り込む骨子の案を提示させていただきました。本日ご検討いただきまして、その結果を基に次回には原稿の案をご用意したいと思います。

まず、資料の1ページ目です。序章は、現在の基本構想の振り返り。そして審議会や区民あだちサロンなどの区民参画について。また計画期間、これは30年後までを想定しておりますが、位置付けなどについて牛山会長にまとめていただきたいと存じます。次に2ページ目から5ページ目は、第1章、足立区がめざす姿・将来像についてです。これまでの審議内容や各専門部会で考案した将来像及び基本理念などを基に作成した案です。

まず、2ページ目にありますのは、目指す姿に至る背景の説明です。各専門部会でも課題として挙げられてきた人口減少・超高齢社会などが招く危機的状況を例示しました。それらを克服するためには、各専門部会から挙げられてきた将来像全体を象徴するようなキーワードでも出されたように、活力や進化が必要だと考えました。そうして導き出した将来像の案が、3ページ目の活力にあふれ進化し続けるまち足立です。このようにいずれの専門部会からも誠に重みのある数多くの検討結果が出されましたので、いくつか抽出するということではなく、包括した表現にまとめ上げました。その分、具体的な取組みとなる表現は、後ほどお示ししますが、新たな基本計画の内容に結び付くこととなる第2章の基本的方向でお示しするという提案になります。

続きまして4ページ目をご覧ください。4ページ目が将来像の根本となる考え方、基本理念の案です。多様な人、多様な生き方が認められ、誰もが自分らしい生き方を追い求めていける一方で、社会の構成員として人や地域とつながり、社会に貢献しなければ

ならない。足立区に関わるさまざまな主体が協力しながら、足立区の将来を創りあげていく、です。また、要素となる各専門部会からの検討結果などを5ページ目に記載しました。要素の一つは、足立区に住む方の多様性を尊重する。もう一つは、つながりがあることで助け合ったりできる。多様性とつながりは一見相反するもののようですが、両方を活かすことが足立区において現在も将来も求められている。更に、これらが両立した状態から発揮される、協力してものごとをつくり出す力がスパイラルアップして将来像が実現されていく。このような考え方となりますが、今、協創力という言葉を使いました。各専門部会から出されたいくつかの基本理念を象徴するような、最近使われるようになった単語で表してみました。なお、現在の基本構想が、協働で築く力強い足立区の実現という基本理念の方を主に前面に出していますが、新たな基本構想はこういうまちをつくっていくという目指す姿、将来像の方を主とすることを、併せて提案させていただきます。

続いて、6ページ目、7ページ目が将来像である、活力にあふれ進化するまち足立、の実現に向けた視点（基本的方向）です。いずれ基本計画という形で区の事業が構築されていく際の方針となりますので、各専門部会からの将来像を基に具体的な取組みとして案をお示ししました。結果的に、各専門部会の分野にも近い、人・くらし・まち・行財政という視点で4つにまとまりました。上から基本的方向の一つ目は、活力と進化の元となる人の視点。多様性を認め合い、夢や希望に挑戦できる人です。二つ目は、つながることで活力と進化を生み出すくらしの視点。人と地域がつながる安全・安心なくらしです。三つ目は、活力と進化を成長させるまちの視点。心の豊かさを実感できる活力あるまちです。最後に四つ目は、活力と進化を支える行財政の視点。様々な主体の活躍とまちの進化を支える行財政です。

最後に、8ページ目の第3章です。あとがきとなりますが、基本構想の内容を実現するために、特に区・行政が努力すべきことなどを牛山会長にまとめていただきたいと存じます。タイトルは真の豊かさへの挑戦ということで仮置きさせていただきました。以上でございます。

牛山会長：ありがとうございました。それではまず、答申案の章立てについては、皆様のさまざまなご意見を区長に伝えるためにこういった構成で、ある程度の文章で説明していくことが必要だと思っております。それから次に骨子については、専門部会からのさまざまなご意見があって、どれを取り込んでいくことができるかということで提示していただいた結果かと思います。

まず第1章と第2章の骨子について検討していきたいと思います。いかがでしょうか。

おぐら委員：4ページの根本となる考え方の基本理念の文章の中身について、趣旨はまさにその通りだと思いますし、私も賛同するところです。いろいろな価値観の方たちの多様性が認められて、地域社会の構成員としてつながって生活をしていく。これは言葉尻の問題かもしれませんが、社会の構成員として人や地域とつながり、社会に貢献しなければならないということで、私の印象では上からの一方的な押し付けているような、行政の言うことを聞いてあなたたちはやりなさいというイメージを受けてしまいます。

表現を柔らかく、あるいはよい形で表現できればと思います。

牛山会長：ありがとうございます。そうですね。内容的には賛同をいただけるということで、社会に貢献しなければならないといわれると少し強いかなということで、文章を考えていければと思いますがよろしいでしょうか。

基本構想担当課長：検討してまいります。

牛山会長：他にいかがでしょうか。

志自岐委員：協創力という言葉ですが、私はあまり耳慣れません。いま流行りか、新しく出てきた言葉なのかも知れませんが、イメージがよく分かりませんので、この言葉で行くのかなということを少し考えていました。

牛山会長：非常に重要なキーワードなのですが、2ページにありますように、協働の土台を前回の基本構想で築いてきて、それを発展させて次のステージに行く。そして協働の内容を具体的に進めていくためのキーワードということで、いろいろ事務局とも議論をして、私もなかなか知恵が出ず、そういったことを表現するよい案がなかなかない中で、事務局でも苦勞をしていただいてこういった言葉を出していただきました。

特にどこかで流行しているといったことではないですが、各部会のご意見等を踏まえてどうでしょうかということでございます。よいお知恵があればお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

石阪委員：三重県で仕事をしているのですが、若い知事が協創という言葉をもとに使用しています。協創プロジェクトとか協創力〇〇など、協働の次のステージに行っているという意味合いで使用している言葉ですが、これから流行する可能性はあると思います。

牛山会長：いろいろ工夫をしておられるとは思いますが、なかなかよい言葉がないというところもあります。石阪部会長からは、こちらはよい言葉であるというご意見かと思えます。

吉田委員：確かに辞書で調べても出てこないのですが、どのような意味かなと思ったのですが、全体的な感じとしてはみんなで協力し合って、そしてその中からよいものをつくり上げていこうという意味であると理解しました。そのような意味では、非常に画期的な言葉ではないかなと感じました。

牛山会長：協働という言葉も出てきた頃は辞書に出ておらず、新聞などにも登場しなかったのですが、10年ぐらい経ってどこの自治体でも言うようになったため、この言葉がどのように定着していくかというところはあります。いろいろ出していただいて、ま

た検討させていただければと思います。他にご意見はございませんか。

北川委員：定義が明確になっていれば特に誤解は招かないと思いますので、協創ということでしたら、先ほどのご意見ということが主旨であれば、そのように定義すれば問題ないと思います。

牛山会長：他の点でも結構です。ご意見をいただけますか。

鈴木けんいち委員：背景について、今後直面するであろう危機的状況に対し、その後に更に進展する人口減少・超高齢社会、その下にはまちの活力低下とありますが、一路暗いというか、危機的に描かれているようで、気持ちが暗くなることもあります。ただ、必ずしも実態を反映していないのではないのでしょうか。例えば人口で言えば、今足立区は増えています。当面は増えていき、その後減少には転じますが、なだらかな減少です。そのようなことも含めると、例えば危機的状況はなくてもよいのではないのでしょうか。更に進展する人口減少のところは、人口増も減少に転じ、高齢社会も進展といったことが妥当な表現ではないかと思います。また、それに呼応して一番下の方で、区民と区政がともに危機的状況に挑みとあるのですが、ここも危機的状況というよりは、変化する状況に挑み、発展させる働きかけをということで、実態を正確に捉えながら前向きに進めるとした方がよいのではないかと思います。

さらに、次のページは、活力にあふれとあるのですが、前のページで危機的と記載している一方で、活力にあふれるというのは一足飛びという印象があります。例えば活力ある足立区といった形の方がよいのではないのでしょうか。また、進化し続けるまちというのは、この間ずっと将来像だから言葉を抽出するのではないと言いながら、これまでの議論を見ますと、進化し続けるまちというのは、まちづくりの中で出ては来ているのですが、他では出てきていません。ある意味抽出になっているため、全体を含むのであれば、例えば多様性とか、一人ひとりがとか、どんな人でもとか、子どもでもといった中ではくくれる言葉はなかなかないのですが、例えば広い意味でやさしさあふれるまちといったことにすればくくれるのではないかと思います。

吉岡委員：おっしゃることは分かりますが、あくまでも区民に向けた情報の発信であるため、あまりいろいろなことを付け加えると、かえって区民の皆さんには分かりにくくなるだろうという思いもあったのではないかと考えます。ですから、まず2ページの部分についても、決して楽観できる状況ではないということで、皆さんにも多少危機感を感じていただきながら、今まで足立区は協働というキーワードを掲げて今日まで来たわけでありまして、更に先ほど出てきましたが協創力という中で、更にこの足立区をよいまちにしましょうということだと思います。現状で満足することなく、そしてその危機感に立ち向かうために進化し続けましょうよという意味合いですから、区議会議員の目線でものを見ると、かえって分かりにくくなるのではないかと思います。

吉田委員：進化という言葉は私がまちづくりの中で出しました。将来像と基本的なイメ

ーじに関する話の中で進化という言葉を出しました。というのは、現状のままでは今から良くならないため、少しでも進歩するとか、発展するとか、発達するとか、そのような気持ちで取り組まなければ足立区のまちは良くなかないだろうという話になりました。そこで、言葉としては発展するとか、進展するとか、そのような言葉において、たまたま進化という言葉が頭に浮かんだため、今まであまり使ったことがないかもしれませんが、これから足立区が目指すならばこれも一つのキーワードではないかという気持ちで出しています。いろいろなものが含まれた形で出した言葉ということでご理解をいただければありがたいと思います。

牛山会長：ありがとうございます。なかなか一つの言葉で全てを表現するのは難しいと思いますが、3ページで説明していただくと、いろいろな意味があるということかと思えます。

それと確かに冒頭から危機的状況と言われるとどうかと思われるところはあるかと思えます。ただ、足立区を含めた東京東部地域の高齢化の進展、75歳以上の人口の増加などは全国平均が2010年を100とすると167とかだと思えます。50年ぐらいの間に、足立区は240を超えます。これは区の中でもかなり高いレベルです。そういった点では、あと数年は人口が伸びていくということはあるため、若干の文言の修正はあり得るかもしれませんが、非常に厳しい高齢社会、人口減少が続いていくというのはトレンドだと思いますので、そのことは書き込んだ方がよいと思います。文言については検討させていただきます。他にいかがでしょうか。

石橋委員：今回配付資料をいただいて、私自身はかなりびっくりしました。従来の基本構想の組み立てと今回はかなり変わっております。先ほどもお話がありましたが、従来は基本理念が前面に出ていて、それに対して将来像がそこから派生していく形でできていました。今回は基本理念ではなく、将来像がまず出てきて、その将来像が前回はいくつかに分かれていましたが、1項目になっています。今回の将来像というのは、基本理念だと思ったのですが、前は基本理念が1本でした。今回はこの将来像を1本にして、基本理念はむしろ散文的になっております。このように基本理念が散文形式で書かれているというのは非常に珍しいのではないかと思います。しかも文章的に理念と言えるのかなという気もしました。

もう一つは、先ほど来議論されている背景です。私自身はこちらに書かれている図は非常に分かりやすいと思います。もちろんこのまますぐに出すわけではなく、この後いろいろ説明をするとは思いますが、この図一つ見るだけで状況がよく分かります。この図を出すと、非常に暗いイメージが先行してしまうのではないかという気がしますが、私の受け取り方となりますが、今回基本構想を直すということは別に義務でも何でもありません。やらなくてもよいわけですが、条例を足立区がつくったのでやらなければいけません。やらない区もあり、必ずしもやる必要はありません。ただ、今回この時点で基本構想を見直す意味があるとすれば、このままいくと苦難の時代が来るのですよということだと思います。こちらはメッセージとしてしっかり伝えるべきだと思います。このまま出すと、非常に暗いイメージで区民に夢を持たせるということにはならないで

しょうけれど、何らかの形で今回基本構想を直すのはこういう状況があるためですということを伝えるべきだと思います。そのような意味で、私はこちらに賛成です。ここに出ている将来像の短い一文の中で、活力にあふれ進化し続けるまちということで、活力にあふれているという言葉と、進化するという言葉の二つがこれでよいのかという問題はあります。1 ページ目の図を受け入れるとすれば、私がこのキャッチフレーズを見たときに、あまりに夢みたいなことを言っているなという印象を受けました。説明を読んでいけば分かりますが、少なくとも活力にあふれ、ではないと思います。このままいくとどんどん活力が衰えていくため、活力をはぐくみとか、保持しとかだと思います。そんな前途洋々たる状況ではない気がします。

それから、進化というものは適切である気がします。従来路線でのほほん、といっていたら、大変苦しいことになるため、いろいろみんなで知恵を出し、どんどん回転し、我慢するところは我慢し、みんなの知恵を出し合って進んでいかないとうまく行きませんという意味で、私は進化というのはよい言葉であるという気がしています。

牛山会長：ありがとうございます。いくつかご意見をいただきました。背景については、ご賛同いただけるというご意見だったかと思います。活力にあふれというところはいかがでしょうか。活力にあふれるとなるとかなり先の話で、少し大げさではないかというご意見だったかと思います。ただ、将来像についてです。将来像がはぐくむという段階でよいのかとか、将来的にはあふれている状況まで見据えてそれを目指していくのかというところかと思います。今回、基本構想ですので、長期的な視点に立ったときにどのようなようになっていくかというところが将来像になるかと思います。委員の皆様のご議論によって決定していくことだと思いますが、将来像として活力があふれている姿を目指していこうという意味ではないかと私は思っています。

ぬかが委員：背景についてはあくまでも背景だと思います。そうすると、客観的な事実でそのような大変な状況を書くのは当然であると思います。ただ、それを極端にあおるのもおかしいし、それからそれとともに背景として客観的事実であれば、その大変だという状況とともに、専門部会で議論していたような足立区の良さや強みの部分も背景として書いていくべきではないかと思います。そうすれば、悪さもあるけれども、一方でこのような良さもあるというのが背景として述べられるというのが大事だと思います。

それから足立区の将来像についてですが、進化し続けるまちという表現について、確かに先ほどの各部会からのご報告を聞いているのもっともだと思います。大事なことだと思います。ただ、将来像として一つに突出したときに、活力にあふれ進化し続けるという二つだけが並んでいくと、強くてどんどん引っ張っていくという足立区の将来像という印象が強く、これまで議論してきた多様性とか、いろいろなニュアンスの部分が置いていかれるような印象を受けます。進化し続けるのが悪いのではなく、これはいくつかある中であればとてもよい言葉だとは思いますが、活力と進化が結びつくことによって、この四つの専門部会の議論の将来像の総体というものとはずれている印象を受けています。

それから協創力の部分ですが、インターネットで探しますと、地方創生会議のビジネス用語として協創力が活きるなどと言われている用語だと思います。すると、造語として今までの協働とはかなり違うニュアンスではないでしょうか。つまり、言葉として協力の協に創るという、それぞれの言葉は悪い言葉ではないし、それが造語だと言われればそうかもしれませんが、実際にビジネスの中で使われている言葉とイコールと捉えられると、やはり誤解を招く印象を持っております。それに代わるものは何なのかという点ではなかなか難しいと思っています。いろいろな専門部会の中で、この議論で出てきた中では、地域力とか住民力とか、いろいろな言葉が出ているというのは読ませていただいています。ただ、協創力という言い方で専門部会でも言われておりません。今世の中で使われている協創力という用語が、この四つの専門部会の議論を包括した言葉にはなっていないと思っています。何かよい対案があれば別の言葉を使っていただけるとよいなと思いました。

牛山会長：なかなか4部会のご議論を統合して表現する将来像は難しいです。その中で進化し続けるとか、あとは協創力についても、今、一つご批判のご意見をいただきましたが、正直なところなかなか対案が出てこない中で苦労しているところではあります。

馬場委員：新たな意見ということではなく、現時点で前回の協働から、更に1歩新しく進んだ形のものをつくっていかうということで、新たなキーワードを用意しようという姿勢はよいと思います。現時点でぴったりはまるかどうかというのは難しい作業であって、今の段階ではこの提案を出されて議論していくのは大変によいことだと思います。

それと、先ほど来将来像の中の背景の議論が出ていると思うのですが、危機的状況の表現に関するいろいろな見方があるのは当然だと思いますが、広く国民や区民とかが行政に対する期待、政治に対する期待のことを考えると、特に国民などは役所が考えているより、政治家が考えているよりもっと危機的に真剣に考えているところも大きくあると思います。ですから、これから厳しい時代、将来に向けて行政は何をやってくれるのかという強い期待があるということを、今先ほど議論が出ましたが、基本構想をしっかりと練って方向付けることが我々にとってのよいチャンスでもあるし、足立区が決めていかなければいけません。それに対して区民は大いなる期待を持って当然見てくると思います。

区民として蓋を開けてどのような危機的意識が役所にあるのか。この審議会のメンバーや関係者も当然気になるところですから、将来に対して真剣に区民を取り巻くこの危機的状況をここまで深く考えているのだというところを示すこの危機的状況の背景の図は、まさにこのぐらい考えていくことを示すにはよいと思います。年金の問題、少子化・高齢化、国の大きな借金ですとか、国民の悩み・不安はもう少し強い気もしています。

渡辺委員：子ども部会に属しています。部会でさまざまな委員の方からすばらしい議論がされたと感じています。特にPTAに携わっている委員の方々から、足立区の未来をつくっていく子どもたちが、夢と希望を持っていただけるような基本構想にすべきとい

う話があって、大変賛同するところです。足立区が目指す姿の並べ方を変えるだけで見方が変わると思います。先に活力にあふれ進化し続けるまち足立を目指していくのだけでも、このような背景があるのだというところを後から打ち出すというやり方にする、ずいぶん見え方が変わってくると思います。

更に中高生ワークショップのお子さんのご意見に、足立区は活力があって、それから未来あふれるといった思いが各部会のご意見の中にも必ず出てきているので、活力にあふれという言葉は適切だと感じています。

田中副会長：私は部会長ということで全体をまとめていますが、事務局のまとめ方にコメントする形になります。例えば2ページの背景は先ほど委員からも出ましたように、危機的状況に加えて、区が持っているさまざまな良さ・特性、あるいは資源などを活用していくということを書いておいた方がよいと思います。区はこの後、いろいろな厳しい状況に直面するけれども、しかし今持っている区の良さ、あるいは資源といったもののバランスを取っていくということを書き込んだ方がよいと思います。

それから、3ページの将来像ですが、活力にあふれ進化し続けるまちということで、まちが賑やかになって活力があるということに結び付くのですが、区民一人ひとりが活力にあふれ、つまり、いきいきと暮らしていけるようなまちであるし、また区民一人ひとりが進化していくようなまちでもあるということです。つまり、まちというのはハードな構造的なまちでもあるし、同時にそこに暮らす人々を指して活力にあふれるとか、進化し続けるといった概念を取ってもらえると、両面非常に広がりがあるのではないかと思います。まちということで結んでいるので、ハードのような語感を与えるかもしれません。工夫の必要はあるかもしれませんが、両面あることを意識すると広がるのではないかと思います。

それから、4ページで、基本理念がどうかという話がありました。構造を見ますと、4ページの図ですが、足立区の将来像は前のページに書いてある活力あふれる、あるいは進化し続けるという将来像に向かって、つながり、協創力の下になるのか、あるいはこの将来像に向かっていく矢印の下に、私の理解からは次の6ページにあるような、ひと・まち・くらし・行財政ということで、区民とそれからそこにあるくらし、そしてハードな意味でのまち、そして行財政がつながりや協創力といった機能を使いながら、最終的に将来像につながるという組み立てになっているのだと思います。

その中で一つ気になるのは、多様性とつながりという対極にあることを言っています。多様性を尊重すると、個性を認めていく社会になるわけですが。するとどうしてもつながりが薄くなるため、多様性をはぐくみつつつながりを強めていくということかと思えます。協創力も、お互いに協力し合ったり、あるいは力を通い合わせる、連帯していくという話だと思います。同時に大事なものは、主体の力だと思います。区民の力であったり、あるいは事業者の力などです。だから、協創力に対応するような主体の力、つまり主体力が入ると、全体としては裏付けるように思いますので、それは少し考えてはどうかと思います。

その上で、最後に6ページ、7ページに四つの部会から出てきた四つの視点ということで、ひと・くらし・まち・行財政で、このような形でまとめていただいたと思います。

これはとてもよいと思います。2のくらしのところに、人と地域がつながる安全・安心なくらし。3のまちのところに、心の豊かさを実感できる活力あるまちとあります。心の豊かさというのは、どちらかというところしに近いところから根ざしています。安全・安心はくらしにもあるし、まちは防災とか防犯という観点でまちの方にもあるのですが、クロスオーバーしています。事務局が工夫されていると思いましたが、人と地域がつながり心豊かな暮らしができることが2番。あるいは、まちではむしろ安全・安心な地域で活力あるまちとするのが各部会から出てきましたが、全体を組み替える際に少しこのようにクロスオーバーさせていることはとてもよい工夫だと思います。

その上でもう一つ注文ですが、3番のところにある活力と、4番のところにある行財政のまちの進化について、活力と進化というものを使った方がよいかどうかです。というのは、将来像にそのようなキーワードが入ってくるので、例えばまちは、心の豊かさを実感できるというのは、魅力あるまちなどです。別のキーワードにして、そのようなものが相まって四つの主体、四つの局面が相まって最終的な将来像。活力ある将来、進化し続けるまちにつながるのだとすると、活力とか進化をここで使った方がよいかどうかというのは思いました。

牛山会長：ありがとうございます。今いくつかご意見をいただきまして、いろいろな工夫をしながら組み替えたり、あるいは文言のところを工夫したりということで、更に良くなるのかなというところもありますが、事務局はここまでのところで何かございますか。

基本構想担当課長：専門部会での議論も合わせて、今日の議論でもいろいろ教えていただきありがとうございます。今後検討していきたいと思います。時間の許す限りご意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

牛山会長：他の委員の方はいかがでしょうか。私からも一つございますが、7ページのひとに子ども部会で議論をいただいた3点があります。親が安心・安定して子育てができて、自らというのは子どものことだと勘違いしていました。ただし、親御さんも成長するということだということとなりますとすばらしいとは思いますが、少し分かりにくいのかなと思いました。そうすると、全部親の視点からの意見となります。親が子どもの命を第一に考える、最善を目指す。親が主体的に生きる力をはぐくむ。親が安心・安全となっていますが、子どもの目線ができるようなところはないのでしょうか。

村上委員：これはなかなか難しいところですが、子どもの視点というところは、中高生のワークショップの議論をある程度意識してつくったと思います。今お話を聞いていて、そういった中高生の視点を専門部会で考案した将来像の具体的なところに、子どもの視点で表現として少し入れてもよいのかなと思いました。少し検討をできればと思います。

牛山会長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

北川委員：ここに書いてあること自体は、今までの資料を見ていろいろ議論があるのは分かるのですが、最終的にどのようなものをつくっていくかということが私にははっきりしてきません。こちらに個々に解説が付いてくるのであれば分かるのですが、このままのものについては、とても素敵なことがいろいろ書いてあるものの、具体的にどのような方向なのかが見えてこないで、最終的なイメージ、あるいは成果物をどのように考えているかをお伺いしておきたいと思います。

牛山会長：これは事務局から説明をお願いします。

基本構想担当課長：形ということになりますが、冊子状のものを想定しております。資料18の章立てで次回原稿をお示ししたいと思います。平成16年に作成した基本構想の答申と大体同じもので、中身の章立てが変わったり、ページ数も20～30ページと、こちらについてはご議論をいただいた上ですが、そういったものを想定しております。答申には解説文も含めて、皆様のご意見も取り入れながら原稿を練り上げていきたいと思っています。そういったものをまとめた冊子で区長に渡す答申としていきたいと思っています。それを受けて、区では基本構想の案というものをつくっていく流れで考えております。

北川委員：了解しました。ただ、これだけだと、ここに参加していなかった人にはよく分からないと思うので、ではどのように補足されるのかは次回の状況を見てまた意見を述べさせていただきたいと思っています。

牛山会長：ありがとうございます。今日は答申の屋台骨みたいなところを確認させていただくということで、資料18が出ておりますが、今ご意見をいただいたように、こちらに加えて序章が入ったり3章が入ったり、あるいは第1章、第2章の文言も今日の議論を踏まえて修正をしながら次回にお示しすることになると思います。他にいかがでしょうか。

早木委員：先ほど他の方から基本理念が散文的だという意見がありましたし、それをどのような形でまとめ上げるのかとおっしゃいましたが、私もこの構想の章立てのイメージというのは、序章から始まって、1章、2章、3章と。3章は後書きになっているのですが、第3章で終わると尻切れトンボのような気がします。将来像をはっきり打ち出したものをまとめて、議論する1章、2章のところで各部会で出たものをまとめて出していく形で組み合わせた方がよいのではないかと私は思います。

牛山会長：もう少し具体的に言っていただけますでしょうか。

早木委員：第3章で終わるとというのが尻切れトンボな感じがするため、ここをまとめるということで、将来像をはっきり打ち出していくのはいかがかなと思うのですが。

牛山会長：イメージとしては、例えば具体的に何をするかを書くということでしょうか。1章、2章で言っていることをまとめる形で3章を入れるということですか。

早木委員：序章は問題点を提示しているところだと思います。論文形式で考えると、将来像というのはこうしていきたいという結論があって、序章があって、それにつながるものとすると思うのですが。

田中副会長：こちらは論文というよりもある説明文章をつくるということになると思います。説明文章というのは、足立区が将来どのようなまちを目指していくことが望ましいのかが将来像です。それから、まちづくりにあたってどのような考え方で進めればよいのかということかというのが基本理念、あるいは基本的視点だと思います。序章は、そうした考え方や理念・将来像を引き出す前提の、今足立区が置かれている現状とか課題、これから直面するであろう課題を整理する部分です。1章と2章はその中の本論で、つまりこのような将来像がある、あるいは基本理念がある、あるいは基本的視点があるということで、つまり今言ったように足立区は将来どのような姿になっていくべきかという部分です。そのための基本的な考え方は何か、あるいは、視点はどのようなものがあるかを説明していきます。

それで、第3章はどちらかというと、これは資料19の8ページなのですが、タイトルが真の豊かさへの挑戦というのは、こうした考え方で進める上で何が残された課題になるかとか、進めるためにはどういうことに留意しなければいけないか。あるいは、どのような区民・事業者、あるいは行政との連携体制が必要だとか、進めるための推進体制とするかといったことを第3章で最後に述べます。そのため、あくまで本論は1章・2章であると私は理解しています。従って、第3章の真の豊かさへの挑戦と書いてありますが、実際にはこうした実現を図るためにも、将来像の実現を図るためにという形で、残された課題や推進体制などについて言及するという章立てでまとまっていると思います。

牛山会長：他に関連するご意見はありますか。

おぐら委員：平成16年の基本構想の組み立ては、今ご指摘いただいた形で見てみると、1章で今の日本社会の状況だとか、足立区の状況についての説明が加えられています。2章で基本理念がうたわれていまして、3章で足立区の将来像という組み立てになっています。そのあたりの組み立てが違うので、ぱっと見たときに理解しづらいものになったのではないかと思います。

牛山会長：今説明をいただいたように、序章で基本構想の策定。区民の皆さんに対して振り返りなどを行い、それから基本構想をどうするのかという背景を示し、それを踏まえて、将来像、それから基本的方向を示していますが、ご承知のようにこの後具体的な施策がずっとまたぶら下がって、将来的に何をするかとなっていくしますので、それに向けたまとめであると思います。

牛山会長：関連するご意見であれば発言をお願いします。

鈴木けんいち委員：私も少し感じるころなのですが、序章があるなら最後は終章とか、あるいはまとめとか、そういうものであればすっと落ちるのではないかと感じました。それで、3章は残された課題とか推進体制ということで説明をされて、なるほど、それは分かるということで、3章は3章でちゃんと書き込むことでよいと思います。その上で、最後になどとあるとおさまりがよいのかなと感じました。

牛山会長：今の点についてはいかがでしょうか。

早木委員：鈴木委員の意見と同じです。そのつもりで私は発言しました。

牛山会長：ありがとうございます。検討させていただきたいと思います。

志自岐委員：将来像の活力にあふれ進化し続けるまち足立という言葉に対し私はこだわっており、この危機的状況に対し、バラ色の未来はよいのですが、実現できるのかとか、夢だけで終わるのではないかと思います。いつも基本構想などを見ていると言葉はりりしいのですが、空疎な感じが私の中ではいつもどこかにあります。そのような言葉であってほしくないというのは、ここに参加するときに心に決めていました。よくよく見ると、左側の活力の確保が必要となっていて、全体的にもマイナスになっていく中で、どのような底上げをしていくのでしょうか。高度経済成長のときみたいにイケイケドンドンでいくというイメージの活力とは全然違うのではないかと考えています。

また、進化として出てきた言葉はおそらくダーウィンの進化論とかからで、必ずしも成長とは限らないというところもあると思います。つまり状況にうまく順応していくというのが進化だと思います。そうすると、例えば進化し続ける、更に成長し、発展するなどということについて、進化という言葉はどんなのかなというのがあります。もちろん状況に対応して進化するということで、私たち足立区は、いかに生き延びていくかというぐらいの状況からすると、日本全体もそうですが、昭和30年代、40年代みたいなイケイケドンドンには絶対にならないということを前提にして、持続可能な社会をどうやってつくっていくかということだと思います。少しイメージが違うような気がしていました。対論もないしまとまりもないのですが、印象だけです。

吉岡委員：今ご指摘のあった人口減少・超高齢社会を支える活力の確保が必要という点について、10年前の8月にこの足立区にTXが開業になりましたし、その後日暮里舎人ライナーが開業し、大学が間もなく6校目が決まるという状況を想定できたのかというと、そこまでは読めていませんでした。その中で、では超高齢社会や人口減少を食い止めてこちらを向上させていくためには、今までやってきたものを更に継続して、大学を卒業された皆さんがぜひ足立区にこれからも住みたい、社会人になっても足立区に住むのだと思ってくれるような足立区にしていく必要があると思います。そのことによっ

て、税金を納めてくれる若い人たちが足立区にたくさん残ってくれて、そしてその若い力を今度は糧にして、更に足立区を進化させていきたいといった議論はまちづくり部会の中でもあって、このような形になっているのかなと思いました。

つまり、少し不安感をあおるような部分が3分の1ぐらい書いてありますが、そこから下はこれを改善していくためには以下のことをやっていって、そして活力にあふれて進化し続ける足立区にしていきますというようなストーリーをイメージしているのだと私は思うのですがいかがでしょうか。

牛山会長：ありがとうございます。このあたりについては、こちらは構想ですので、バラ色の将来が描かれているようなイメージになってしまうところは、ご指摘の通りのイメージがあるかもしれません。ただ、将来像ですから、将来像を現実的な面から下げていくということも私はいかななものかなと思います。将来的にはこうなるのだということを経営改革専門部会に立って述べていくということがありますので、そのような意味で少し書きすぎとか、こんなことができるのかということが出てきてしまうところは仕方ないと思います。

今のご意見をいただきながら説明をいただきましたが、活力という言葉の中身が3ページに書いてあったり、進化ということもご指摘のように、闇雲に何か投資して発展していくというよりは、その現状に適応しながら出てくるいろいろな多様性の問題とか、危機的な状況にも対応していくという意味合いで進化という言葉を使っており、その意味でいうと、言葉自体にいろいろな受け取りかたやイメージがあるので、その点についてご意見はあるかと思いますが、皆様の専門部会のご議論をまとめていく言葉として苦労しながらこういった言葉が出てきているものですから、不十分な点はあるかもしれません。もし具体的なご提案があるようでしたらいただきながら検討していきたいと思います。

他に言い残した方がいらっしゃいましたらどうぞ。

大塚委員：7ページについて簡単にですが、1番のひとのところですが、多様性を認め合い、夢や希望に挑戦できる人という表現になっていますが、挑戦できなければ駄目なのかということになりますので、私は挑戦する人ぐらいの方がよいと思います。

あとは1から4のうちどこにでもよいのですが、専門部会として出てきましたが、健康的な、あるいは魅力、そういったキーワードが出てきていないのでそれを入れていただければと思います。

牛山会長：ご意見ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

近藤委員：今のお話に関連するのですが、私は経営改革専門部会にいたのであまり議論をしなかったのですが、将来像ですから、若手が中心になるのは当然だと思う反面、健康寿命は今日本が世界一だと言われています。75歳以上の高齢者がどんどん増えていく中で、そういった方々があまり行政に頼ることなく、健康に生活を続けていくための何かが少ないのではないかと思います。高齢者が安心して生活できるような部分も多少

入れてもらいたいなと思います。

田中隆一委員：将来像のところで活力にあふれということで、先ほど田中部会長からあった一人ひとりという視点があると、最後の1人まで拾っていくという印象が出ると思います。

鴨下委員：今お話がいろいろ出ていることで十分に理解はできるのですが、皆様の意見を一つひとつ前に進めるためには、先立つものとして根幹となるべきはお金だと思います。税金収入が上がってこなければ、全て夢物語、全て描いた餅で終わることもあるわけですから、2ページで税収減と扶助費の増加というもののあたりに収納率、税金の増加というものをみていかない限り、なかなかここで述べていることが現実にはなかなか結び付かないことがあるということも踏まえる必要があり、将来像を示すためにも、多くの区民の方々に担税力のある方に来てもらうことと同時に、納税も重要なポイントなのだという事を入れていただかないといけません。先ほどお話が出たように老人のケアも含めるとすると、先立つものがなければ何もできないということも大きなポイントになると私は思います。

牛山会長：他にはいかがでしょうか。

岡安委員：背景で、将来像が議論になっています。こちらに関しては、実態を必ずしも把握していないという意見もありましたが、私はむしろ逆であると思っており、これは実態であると思います。だからこそきちんと述べなければいけないと思います。ただ、危機的というのはあまりにインパクトが強いので、楽観できる状況ではないなど、マイルドな表現にするのも一考かと思います。また、将来像のテーマは、人という視点をどのように入れるかということで私もいろいろ考えたのですが、なかなかこの場で数分では考えられなくて、人・まちであってもおかしいかなと思うため、むしろ全部取ってしまって、生き続ける足立ぐらいにした方がシンプルでよいのかなとかいろいろ考えられます。そのあたりも一考していただければと思います。

それと7ページに関して、3番のまちと4番の行財政に活力・進化が入っているのはどうかというご指摘がありましたが、私もそのように思いました。ここだけに入っていると、まちの行財政だけに重点が置かれていると見られるとも思うので、魅力に対するという点では、魅力というのも大きなテーマで出てきますし、4番も進化を発展とか進展に変えるというのも一考だと思います。

牛山会長：時間がまいりました。言い残したことがあればいかがでしょうか。

野辺委員：ひとのところにまた戻るのですが、3番目の親が安心・安定してというところの、自らが育つことができる親かという話が先ほどありました。もちろん親なのですが、親が育つことによって、ひいては子どもに循環してよい影響を与えられる人になれるのではないかなと思います。ですから、これは子どもに対してというか、子どものこ

とを言っていたのだと思います。

牛山会長：それではよろしいでしょうか。ありがとうございます。たくさんのご意見をいただきました。全てを反映させていくのは難しいかもしれませんが、真摯に受け止めて次会議に向けた文章の作成を進めていきたいと思います。これで今日の審議は終わります。

6 事務連絡

牛山会長：事務局から事務連絡をお願いします。

基本構想担当課長：事務局から次回の開催についてご連絡がございます。12月24日木曜日、午後1時30分から午後3時30分です。場所は本日と同じ区役所中央館8階の特別会議室でございます。もしもご欠席となる場合には、これまでと同様に電話やメール等でご連絡をいただけますと幸いです。それからお忘れ物のないように、机の下などお手数ですがご確認をいただきましてお帰りいただきたいと思います。

なお、お車でお越しの方は、出口付近の係の者にその旨を教えていただきたいと思います。本日は早い時間から誠にありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。

午前11時00分 閉会